

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年5月13日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891400038		
法人名	社会福祉法人 愛正会		
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 やすらぎの家	ユニット名	—
所在地	〒318-0021 茨城県高萩市安良川963-9		
自己評価作成日	平成24年11月28日	評価結果 市町村受理日	平成25年5月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_021_kani=true&JigyosyoCd=0891400038-00&PrefCd=08&VersionCd=021
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年1月25日	評価確定日	平成25年4月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>御利用者様の立場に立ち、自宅で生活しているようにゆったりとした時間の流れを感じていただけるような穏やかな雰囲気サービス提供できるよう心がけています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>併設している多目的ホール「やすらぎドーム」を、常会の集会や折り紙教室、太極拳、元気アップ体操など地域住民の活動に使用できるよう開放している。 利用者は職員と一緒に自家菜園で野菜や西瓜を栽培し、収穫して食材に活用しているほか、節分祭や雛祭り、敬老会などの行事食は職員が手作りし、利用者が食事を楽しめるよう支援している。 管理者と職員は利用者の気持ちに寄り添い、日常生活のペースを乱すことなく明るい雰囲気づくりを心がけながらきめ細かな支援をしている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の業務上で取り決め事を検討する際、職員全員が常時運営理念を反芻し、利用者の気持ちに寄り添うケアの提供に努めています。	開設時に運営母体と管理者で話し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成している。職員が理念を確認できるよう毎日のカンファレンスで使う机に理念を貼り、共有して実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	通所サービス送迎の際には近隣住民への挨拶や声掛けを心がけています。併設しているやすらぎドームを地域住民に開放しており、近隣高齢者の元気アップ体操等の活動に利用して頂いています。	併設している多目的ホール「やすらぎドーム」を、常会の集会や折り紙教室、太極拳、元気アップ体操など地域住民の活動に使用できるよう開放している。利用者は「やすらぎドーム」で催されるクリスマス会や敬老会、発表会などを見学し、地域の人々と交流している。職員は通いサービスの送迎時には近隣住民への挨拶を心がけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での意見交換や、併設している在宅介護支援センターと地域包括支援センターの連携で地域住民への働きかけを行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催しています。利用状況の報告、意見交換等で業務改善に取り組んでいます。	運営推進会議は地域包括支援センター職員や家族の代表、民生委員などで2ヶ月に1回開催し、会議録を作成している。会議では事業所の利用状況や活動状況を報告するとともに、委員から意見が得られるよう取り組んでいる。管理者は避難訓練の際に地域住民に参加してもらえるよう依頼するなど、委員と話し合っている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	在宅介護支援センターを併設しており、市の地域包括支援センターとの連絡調整を随時行っています。	在宅介護支援センターを併設しているため、地域包括支援センター職員と連携が図られており、事業所の運営に関する相談をするなど、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束廃止マニュアルに沿って11項目の具体的な行為やそれらに準ずる行為について理解しており、身体拘束を行わないケアを実践しています。	身体拘束廃止に向けたマニュアルを作成し、職員は禁止の対象となる11項目の具体的な行為を理解している。 管理者は身体拘束をしないよう常にきめ細かい指導をするとともにカンファレンスで話し合い、共有して実践につなげている。 玄関や居室は施錠せず、職員の見守りで利用者が自由に生活ができるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	御家族の介護疲れを予防できるよう連絡を密に取るよう努め、ストレスからの虐待につながらないようケアしています。事業所内でもマナーブックにて社会福祉援助技術に基づく考え方、声掛けの仕方を職員に周知徹底しています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員マナーブック内の「利用者の権利擁護」項目について全職員に周知徹底しています。市の社会福祉協議会と連携できる体制があります。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書、パンフレット等で説明を行い、わかりづらい項目については随時改めて説明させていただき、理解して頂けるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時、頂いたご意見等については真摯に受け止め毎日の昼礼（カンファレンス）にて検討し改善できるものについては即時改善を行っています。また、御意見箱の活用と共に御家族に気軽に話して頂ける雰囲気作りにも努めています。	職員は送迎時や連絡帳で家族等から意見や要望を聴いている。 出た意見等は毎日のカンファレンスで検討し、改善ができる課題については迅速に対応している。 家族等から「昼食の献立を知りたい」との意見を受け、連絡帳に記入することとするなど、出た意見等を運営に反映させている。 毎年利用者満足度アンケートを実施し、集計して結果を利用者や家族等に報告するとともに職員で課題を検討し、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の昼礼（カンファレンス）にて職員から利用者の状況・連絡事項・報告事項等を話し合っています。	管理者は毎日のカンファレンスや月1回の職員会議で職員の意見や要望を聞く機会を設けている。 管理者は職員から出た「休憩室にロッカーの設置」や「自家菜園で使用する農機具や野菜の種などの購入」などの意見等を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎日の昼礼（カンファレンス）、月に1度の職員会議にて職員からの要望、意見交換等を行い反映できるよう努力しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修（新人研修、新人フォローアップ研修、中堅研修）への参加。その他外部研修へ積極的に参加し、スキルアップできるよう努めています、		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	高萩市ケアマネジャー連絡協議会に入会しており、また県北地区ソーシャルワーク勉強会にも入会しており、ケアマネジャー・病院ソーシャルワーカー間の勉強・研修・交流会を通じて相互のサービス向上に努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訪問させていただいたり、雰囲気を見ていただくために来所させていただいたりとお話ししやすい環境づくり等に配慮し臨機応変に対応しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問させていただいたり、雰囲気を見ていただくために来所させていただいたりとお話ししやすい環境づくり等に配慮し臨機応変に対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取り・アセスメントにより、最も必要とされているサービスを見極め、必要であれば小規模多機能居宅介護のサービス以外でも随時提案させていただきます。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	寄り添うケアを常に念頭に置いてケアを提供しています、特に個人の尊厳を守る観点から介助しすぎない、お話を傾聴する等信頼関係の構築に努め、職員と一緒に高めあえるような関係作りを目指しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	継続的な関わりの中で、御家族・御本人間のそれぞれの思いをできるだけ把握し、それぞれの代弁者になったり、共感者になったり、より良い関係が築けるよう支援します。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	初回面接等の御本人の状況把握の時に、地域との関わり、社会的な繋がり状況等を留意して聞き取り、お茶飲み友達の輪がある場合はそのコミュニケーションに干渉しないように配慮する等、留意しています。	職員は利用者一人ひとりの生活歴や地域との係わりを把握している。 自立している利用者が多く、自宅で近所の方や知人と行き来したり家族等と理・美容院に出かけるなど、利用者は自ら馴染みの関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの性格や個別性を把握し、行動（言動）等からトラブルにならないよう適宜配慮しています。また、会話の間に入り、孤立しがちな方に対して話を促す等、配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で契約終了となっても、いつでも対応できるよう、柔軟な体制作りをしています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個人のニーズ把握に努め、無理強いせず、利用者本位のケアを提供できるよう心がけています。	職員は基本情報から利用者の生活歴を把握するとともに、利用者の日々の行動や会話から思いや意向を汲み取り、利用者本位の支援に努めている。 利用を始めて間もないため事業所に馴染んでいない利用者には職員が寄り添い、無理に話を聴き出さないでゆったりと利用者の希望を聴くよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面接や定期の訪問等の継続的な関わりの中で、御本人に直接確認したり、御家族に聞いたり等情報収集をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	初回面接や定期の訪問等の継続的な関わりの中で、御本人に直接確認したり、御家族に聞いたり等情報収集をしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人、御家族からの情報をもとに、毎日の昼礼（カンファレンス）や、月1回の職員会議で検討し介護計画に反映しています。	介護計画は利用者や家族等の希望を聴くとともに、個別生活支援経過記録などを基に、職員で話し合っ介護支援専門員が作成している。 毎月モニタリングを行い、3ヶ月又は6ヶ月毎に介護計画を見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時状態に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	御利用者それぞれの個別生活支援記録に詳細にケアの実践、結果、気づきや工夫等を記入している。また職員間の申し送りノートにも記載し情報の共有を図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な宿泊・通所希望にも柔軟に対応し、夜間の連絡体制も事業所の携帯電話を利用しいつでも連絡が取れる体制をとっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	おひとり暮らしの利用者に対し、別居の家族・近隣の住民や民生委員とも連絡をとり合い、地域の中で安心して暮らせるような環境作りに努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医より診療情報提供書をいただき、サービス提供についての参考にしています。体調不良時に適切な医療が受けられるよう、連絡調整が密にとれるよう努めています。	利用開始時に利用者や家族等が希望するかかりつけ医を確認している。併設しているクリニックを利用者の半数以上がかかりつけ医としており、クリニックを受診する場合は職員が付き添い受診結果を連絡帳などで報告している。利用者の体調が悪い場合は主治医と連携を図るほか、併設しているクリニックと協力体制を整えている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りノート、昼礼（カンファレンス）等で情報共有し健康管理を行っています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のメディカルソーシャルワーカーと連携し、情報交換を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医と連携を取りながら、御本人・御家族にとって最良の方法を支援します。	重要事項説明書に「事業所は看取り介護に対する体制が整っていないため看取り介護サービスは行っておりません」と明記し、契約時に利用者や家族等に説明している。 利用者が急変した場合の事業所の対応方針を決めるまでには至っていない。	利用者が急変した場合に備え、協力医療機関や職員で話し合い、緊急時の対応方針を明文化して利用者や家族等に説明することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の行動マニュアルに沿って初期対応や連絡が適切に行動できるよう訓練しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導のもと定期的に防災（避難）訓練を行っています。また法人内の自衛消防隊があり合同防災訓練（通報・避難・炊きだし）を行っています。	消防署指導のもと併設しているクリニックや近隣にある法人系列の病院と合同で避難訓練を年2回実施しているほか、夜間を想定した避難訓練を実施しているが、避難訓練の反省点や課題を話し合い、記録に残すまでには至っていない。 運営推進会議で避難訓練への近隣住民の参加を依頼しているが、参加を得るまでには至っていない。 米や冷凍食品などを2日間程備蓄しているほか、居間兼食堂に飴やおむつ、懐中電灯、手袋などの避難用具が入ったリュックサックを用意し、災害に備えている。	避難訓練に近隣住民の参加が得られるよう、引き続き運営推進会議で話し合うことを期待する。 避難訓練で明らかになった課題の改善に向けて職員で話し合い、結果を記録に残して次回の訓練に活かすことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に個人の尊厳を傷つけることのないような言動や介助方法を心がけています。個人情報については施錠できるキャビネットに保管しています。	職員が接遇やプライバシー保護に関する外部研修を受講した場合は、全職員で共有できるよう報告会を行っている。 職員は利用者の基本情報から生活歴を把握し、一人ひとりの人格を尊重した対応や言葉かけに努めている。 管理者は守秘義務について職員に周知を図るとともに、個人情報に関する書類は事務所の鍵のかかるキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ自己決定できるよう支援させていただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御利用者のペースを第一に考えその人らしく過ごせるよう、個別の寄り添うケアを提供しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみなどにさりげなくお声掛けさせていただき、気分良く過ごしていただけるよう支援します。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事とおやつは、できるだけ御利用者共同作業で行っております。	職員は利用者が食事を楽しめるよう見守りや声かけをしているが、一緒に食事をするまでには至っていない。 自家菜園の野菜を献立に取り入れているほか、雑祭りや敬老会、クリスマス会、誕生会などの行事食を職員の手作りで提供している。 月1回公用車で1人から2人ずつ好みのレストランで外食ができるよう支援しており、利用者の楽しみの一つとなっている。 利用者はできる範囲で茶碗拭きなどの役割を担っている。	利用者と職員と一緒に食卓を囲んで同じ食事を楽しく食べることができるよう、管理者や職員で話し合うことを期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に嗜好を把握し状況に応じて食べられないものは代替えする等工夫して提供しています。水分量は個別支援記録に記載し、少ない場合はお声掛けして提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	来所時と毎食後、洗面台にてうがい・歯磨き・口腔ケアを支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の尊厳を配慮し、御利用者の状態に応じて定期的な排泄誘導や声掛けをさせていただき、快適に過ごしていただけるよう支援しています。	職員は排泄チェック表を作成して利用者の排泄パターンを把握するとともに、タイミングに合わせて声かけや誘導を行い、トイレで排泄ができるよう支援している。 夜間は居室にポータブルトイレを置いたり、トイレ近くの居室を利用できるよう配慮するなど、排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多くとっていただけるような献立作りをし、状況に応じて水分補給や軽体操等の声掛けを行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個室にてお好きな時間に入浴して頂けるような体制で支援しています。	通いの利用者には午前と午後の希望する時間帯に一人ずつの入浴支援を行うほか、気の合う利用者同士で入浴を楽しめるよう支援している。 安心して入浴ができるよう、浴室にシャワーチェアを用意している。 家族等や職員が菖蒲や柚子を持参し、利用者は季節を感じながら入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて宿泊室を利用して休んでいただいています。また和室で横になっていただいたり等、自宅での生活スタイルと同様の環境作りに努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬・臨時薬が処方されるたびに薬剤情報の写しをいただきファイルしています。用法・容量については一覧にし食事のたびに確認し確実に服薬できるよう支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人が主体性を持って活動できるアクティビティーが提供できるよう支援します。畑作業、外食、ドライブなど季節の行事等適宜行っています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御希望や天候によって買い物等外出する機会を増やせるよう支援します。	天気の良い日は利用者の希望にそって散歩や買い物に出かけられるよう支援している。 レクリエーション担当係を配置して年間の行事計画を立て、毎月公用車で利用者が希望する外食やドライブ、花見など、様々な外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内でお金を使う所はありませんが、御本人が利用料等を直接お支払いするケースもあります。特に所持に関する制限はありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所の電話をお取次ぎし、御家族と連絡をされている方もおります。特に制限はないため御要望があれば、適宜対応致します。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間でも衝立やテーブルの位置・ソファの向きなどにも配慮し出来るだけ快適に過ごしていただけるよう努めています。また、テラスのプランター、畑などが見えるようにして季節感を感じていただけるよう配慮しています。	居間兼食堂は広く、木材や暖色系の蛍光灯を使用して落ち着いた雰囲気づくりをしている。 居間兼食堂の一角にある和室に炬燵を設置して自宅と同じ様な環境となるよう配慮しており、利用者は横になったりテレビを見て過ごしている。 廊下やトイレ、浴室は広く清潔に保たれているほか、室温を一定に保ち、利用者が居心地よく過ごせるよう支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大人数で集まれるスペース、少人数で集まれるスペース、和室、宿泊用個室などその時の気分に応じて対応できるよう配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険なものでない限り持ち込みの制限はしていません。なじみの物を自由に持ってきていただいています。	管理者は利用者や家族等に泊まりの時には馴染みの物品を持参してもらえよう説明している。 居室はフローリングでエアコンやカーテン、ベッド、整理箆筒が備え付けられている。 利用者は家族等と相談して電気毛布などを持ち込んでいる。 頻繁に泊まりを利用している利用者の場合は、前回と同じ居室に泊まれるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	尊厳を傷つけないよう声掛けや対応を工夫し、残存機能を最大限発揮できるよう配慮しています。認知機能の低下した御利用者に関しては職員が統一したケアを提供する事で混乱を予防します。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 小規模多機能型居宅介護事業所 やすらぎの家

作成日 平成 25 年 5 月 7 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	重要事項説明書に「事業所は看取り介護に対する体制が整っていないため看取り介護サービスは行っておりません」と明記し、契約時に利用者や家族等に説明している。利用者が急変した場合の事業所の対応方針を決めるまでには至っていない。	緊急時の具体的な対応方針を明文化する	緊急時の対応を明文化する為協力医療機関との話し合いや職員会議等で検討する	6ヶ月
2	35	避難訓練の反省点や課題を話し合い、記録に残すまでには至っていない。運営推進会議で避難訓練への近隣住民の参加を依頼しているが、参加を得るまでには至っていない。	避難訓練後の課題及び反省点等を写真と共に記録する 住民の参加が得られるような避難訓練を実施する	避難訓練後の課題及び反省点が検討できる会議を開催する。 近隣住民の参加については運営推進会議で検討する	6ヶ月
3	40	職員は利用者が食事を楽しめるよう見守りや声掛けをしているが、一緒に食事をするまでには至っていない	利用者と共に食事ができるような体制を作る	職員会議で食事時間・業務等の見直しを行う	3ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。